

「和の心」 ～日本人として～

H29. 8. 24

1 「和の心」とは

聖徳太子は十七条の憲法において、「以和為貴(和を以て貴しと為せ)」と説き、それが日本人としての美德として受け継がれてきています。この意味は、「個人を重視するのではなく、集団における秩序や調和、また礼儀を重んじること」ということになります。つまり、一般的にはあからさまに人と対立することなく、仲良くやっていくことぐらいに考えられています。しかし、対立することなく集団としての成長はありえません。では、太子が説いた本来の「和の心」とは何でしょうか。そこで、「調和」と「融和」そして「共和」という3つの「和」を考えました。

2 3つの和

(1) 「調和」

まず「和」は、みんなが仲良く作業をしたり、生活したりするのに役立ちます。お互いにつりあいとれるように心掛ければ、効率的に作業を進めることができます。そして、生活の中ですべての人やものにつながっていると感じます。例えば、オーケストラはさまざまな楽器で演奏されます。その1つ1つの楽器の音色がバランス良く合わさったとき、美しい音楽が奏でられます。つまり、「和の心」は心地よい調和をもたらしてくれるのです。

(2) 「融和」

でも、「和」とはみんなが同じであるということを守持するわけではありません。例えば、木の葉がユニークな形をもっているように、地球上の一人一人は特別な存在です。でも、それを争いの理由にしてはいけません。そのために、お互いが対話をしなくてはならないのです。自分はどんな存在なのかを語ります。また、仲間の語りを心で聴きます。つまり、一人一人が持っている個性を尊重し合い、みなで融和していくのです。

(3) 「共和」

こうして、私たちが一人一人を大切に思うとき、本当の「和の心」は生まれます。そうなれば、一人の喜びはみんなの喜びとなります。また、一人の背負った傷は、みんなの背負った傷となります。例えば、仲間のだれかが「元気がいいね」と褒められたら、みんなが元気がいいということです。仲間のだれかが「声が小さいね」と注意されたら、みんなが大きな声を出すようにすればいいのです。つまり、お互いが共和していけることになるのです。

3 大きく和する

「和の心」があれば、ひとりのときよりも多くのことを達成することができます。「和の心」は、すべてのものがひとつであると感じることができるのです。しかし、それぞれに違った個性の者同士が和するのは、生半可なことでは到底叶いません。そのために、強い愛、つまり強い精神力に裏打ちされた愛が必要となります。その、強い愛によって「大きく和する」という、極めて積極的で前向きな日本人の心が持てることを期待したいです。

